



会長就任にあたり

群馬県山岳連盟会長 羽野 順一

就任以来二十四年間にわたり、群馬県山岳連盟の会長として多大な功績を残してこられ、私達を御指導していただいた星野光会長が六月二十四日をもって勇退され、後任の会長として星野会長をはじめ岳連役員の皆さんから推薦され、正式に依頼を受けて、その責任の重大さに身が引き締まる思いです。それと同時に大変光栄なことであり、名譽なことと深く感謝致しております。

永い歴史と伝統のある群馬県山岳連盟の会長を引き受けることとなり、改めてその責任の重さを痛感しております。岳連のリーダーとして星野会長とくらべてすべての点で名実共力不足のため今後の岳連運営に関して、又対外的な件に関しても私をフォローしてくれることが会長を引き受けるための条件の一つでした。特に副会長の角田さん、八木原さん、理事長の佐藤さん、副理事長の小林さん、

事務局長の女屋さん、その他各委員会の委員長の皆さん、顧問の中曾根先生、参与会長の小林さんをはじめ参与の皆さん、岳連理事、役員、各加盟団体会員の方々に對しまして御支援と御協力をお願いしなくてはなりません。今後の山岳連盟に對しまして今まで以上のお力を貸していただきたくお願い申し上げます。

さて、ここで改めて会長就任にあたって、私個人としての意見や最近の山岳連盟に對して感じている点等について身勝手な考えと思いますが書いてみたいと思います。

初めに現在岳連で深刻な問題がいくつかあります。その中で「岳連加盟団体減少」があります。この問題に関しては群馬岳連だけの問題ではなく、他県の山岳連盟と同様の悩みと思いますが、以前私の知人から相談を受けたことが気になっています。

山岳連盟は私共から見ると高度な登山やヒマラヤ登山と言うイメージが強く、一般の登山者からは自分達とは少し掛け離れた団体と感じている。先鋭的な山行も必要と思うが、一般の山愛好者が気軽に入れる部門もあっても良いのでは？

登山教室にも以前参加したが登山教室は大変よい企画だと思う。

その他に例えば「山岳写真研究会」又は「花と高山植物の会」等の研究会やサークルのような部門も新設し、岳連会員外の一般登山者にも岳連会員になり楽しんでもらうことも考えてほしい。

このような意見も参考に一度検討する必要があるのでは？ 賛否両論もあると思うが。

もう一つの問題は将来の岳連を担う若い会員の入会をどうするかだと思う。この件については岳連加盟の各山岳会も同じ悩みをかかえていることで、登山人口の半数

以上が定年後の人達で高齢化している。若い人達がなかなか入ってこない。岳連としても以前から問題になってはいるが良い対策が出てこない。

学校を卒業してすぐに山岳会に入会することを考えるよりも、まずは若い人に山の素晴らしさ、楽しさを知ってもらうことから始めるべきかと思う。そこで岳連の中で今後高体連の先生方にも協力してもらい、高体連登山部と岳連で今まで以上に高校生と岳連会員が一緒に行える行事を行い交流を深め、若い人達の意見を聞き、山の楽しみ方や山の素晴らしさを知ってもらうことが大切かと思う。

山の楽しみ方は若い人も中高年も人それぞれ異なった方向で良いと思う。そう言う意味で山岳会はどんな人でも入会してその人に適した山行を行えばそれで良いと思うし、先鋭的な山行を行う会はそれはそれで良いのではないだろうか。

会の考え方にもよるが会の在り方について検討し、場合によっては方向転換を図り、性別・年齢を問わず気楽に入会し自分に合った仲間と山行を行い、山を通して共通の友人が出来れば、パソコンや

ケータイだけがすべての生活から
若い人達が山を通して健康的で楽
しい遊びに方向転換してほしいと
念ずる。

最後の一つは、当り前のことだ
が、「今後岳連内から山の事故を
絶対に起こさない」を合言葉に強
い信念を持って活動し、遭難防止
に力を入れて行きたい。
まとめとして、

(一) 岳連として仲間を増やして行
くにはどうしたら良いか。

(二) 若い人達に山の素晴らしさを
知ってもらうにはどうしたら
良いのか。

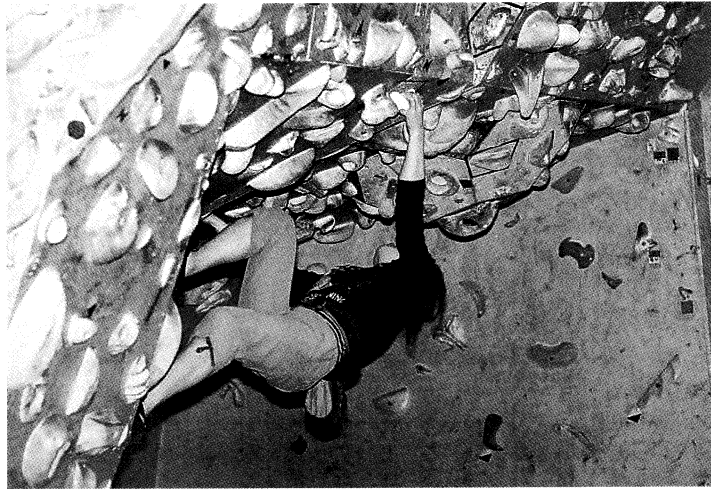
(三) 遭難防止に強く取り組んで行
くにはどうすべきか。

以上の三点についての対策専門
委員会を発足し、対策を立てて対
応を行かなければ山岳連盟の
存続は不可能ではないだろうか。

最後に改めて群馬県山岳連盟に
対し、役員をはじめ会員皆様の御
支援と御協力を心より御願ひし、
会長就任の挨拶と致します。

第13回 群馬カップ2008 兼群馬県民体育大会2部山岳競技会開催される

群馬県高体連登山専門部 長谷川喜久男



ボルダリング

◆期日 平成二十年四月二十日(日)
◆会場 ウォールストリート
今年は、群馬カップが群馬県民
体育大会2部山岳競技会(国体県
予選)を兼ねて実施されました。
競技形式は国体関東ブロック大会
などに準じ、ボルダリングとリー
ドの2種目を行い総合で順位を決

定するものです。選
手はキッズ、ビギ
ナー、オープン の3
カテゴリーで、キッ
ズはリードでなく
トップロープで実施
されました。ボルダ
リングは2つの課題
(プロブレム)を1
人ずつ順番に登り、
制限時間4分で完登
した数の多さ・それ
に要した試技数(ア
テンプト)の少なさ
で順位を決定しま
す。また、完登でき
なくても、途中にボ
ーナスポイント(特
定ホールド)が設け
てあり、その通過に
よりポイントを加味
します。リードは制
限時5分、下から順
にクイックドロロー
プを掛けながら登
り、その到達高度
で順位を決めます。
トップロープの場
合は、このクリップ
という

動作が不要となります。

出場者はキッズ十五名、ビギ
ナー二十三名、オープン三十七名
でした。この中には過去の競技成
績が優秀な選手も多数含まれ、熱
戦が期待されました。男子は、
JFAユース選手権2008で2位
の沼尻(茨城)、4位の笠原(長
野)、Bセクション2
007第1戦9位の平
野(群馬)、2008
第1戦15位の浅田(東
京)、群馬県国体選
手の富澤、前々回優
勝者の堀込、女子
では2007日本選
手権で小学生な
がら堂々の優勝
の尾上(埼玉)、20
07関東スポー
ツクライミ
ング3位の金
谷(東京)、2007
JOCジュニア
オリンピック
カップユース
B優勝の長
谷川(群馬)、同

ンダーユースB優勝の平井(茨
城)、JFAユース選手権200
8ユースA2位の小川(東京)な
どの有力選手がいます。
結果は以下の通りでした。

キッズ 1位 徳永(東京)、2
位 大高(東京)、3位 波田
(埼玉)。

ビギナー 1位 鈴木(栃木)、
2位 日向(埼玉)、3位 是
永(埼玉)。

同女子 1位 是永(埼玉)、2
位 桑原(沼女)、3位 橋詰
(前女)。

オープン 1位 富沢(群馬)、



オブザベーション

2位 仲山（神奈川）、3位 平野（群馬）。

同女子 1位 尾上（埼玉）、2位 平井（茨城）、3位 金谷（東京）。

キッズについては、県内からの参加者は一名のみで、競技人口が増えないことが一番の悩みです。近県では東京都は4年後の国体をにらみキッズも強化にも取り組んでいるようです。今年のJOCジュニアオリンピックカップ・アンダーユースBで女子2位の選手も輩出しています。

栃木にはジュニアの育成に熱心なクライミングジムがあり、近県からも多数の選手が集まっています。今後の群馬県内のキッズの育成を岳連あがりの取り組みとしていかないと、とても他県に太刀打ちできない状況となっているようです。

ビギナーの部では、大人に混じって3位の是永は今年のJOCジュニアオリンピックカップ・アンダーユースBで男子7位ともなっています。県内の参加者は男子高校生が多かったのですが、山岳部の練習の一環としてたまにクライミングを取り入れている程度ではなかなか成果は出ないよう

です。女子の参加者は少なく、有力選手は1名だったので、運良く入賞者が出ました。

オープンでは、リードに強みを発揮した富沢選手が優勝しました。昨年他県に渡っていた群馬カップを取り戻したことになります。ボルダリングはBセクションがなくなり公式戦がめつきり少なくなり、競技人口も多く全国に強い選手がたくさんいますが、その序列はわかりにくいものとなっています。今回は平野選手が1位、富沢選手が3位ということで、この両名が結果的には県の国体選手に選ばれましたが、本国体でのボルダリング入賞に期待が高まりました。女子は男子と同じルートで競技したので、さすがの昨年度日本選手権覇者の尾上選手も苦しかったようです。

最後に岳連の皆様にも多数の役割分担をお願いしてスムーズな運営ができたことをお礼申し上げます。今後ともご協力をお願いいたします。また、リードとボルダリングを合わせて行う形式の大会は全国でもめずらしいことです。会場や運営の都合もありますが、今後ますますの発展を期待いたします。

第五回

自然植物観察会報告

群馬岳連自然保護委員会 須田 久男

二〇〇八年七月二十一日(月)

(海の日)、第5回自然観察会が上州武尊山(武尊田代、花咲湿原)に、自然が好きで自然保護に関心のある登山者を集めて開催されました。参加者は一般参加者と岳連関係者を合わせて二十名、植物の説明講師三名、計二十三名と少数でしたが、その分講師の説明が参加者全員に聞こえ、内容の濃い観察会になりました。

観察会のコースおよび日程は、武尊牧場駐車場に7時30分集合、武尊牧場の協力を得てマイクロバスで登山口まで移動、8時40分に登山開始、三合平、武尊避難小屋10時20分、武尊田代に11時40分に着き、昼食をとりました。12時20分に行動開始し、花咲湿原13時00分、東俣駐車場14時20分、リフト乗り場15時00分、リフトで15時40分に駐車場に着き、閉会式を行い、16時20分

に解散しました。

天気にも恵まれ、この季節としては暑さもそれほど厳しくない好条件の下、スタートとともに講師の説明が始まりました。登山道の両側に緑の葉を付けたカエデ、ミズナラ、ブナの木、足もとに咲く草花、ブナの立ち枯れの太木には真つ白なウスヒラタケがびっしりと付き、自然の雄大さを肌で感じながらの散策は、観察会ならではの雰囲気になることができました。また、一般の参加者から活発な質問がありました。武尊湿原では野生種では珍しいヒメカイウの

白い花が咲く場所で、湿原の乾燥が進行し、湿原の植生も少しずつ変化して行くようでした。それでも武尊湿原、花咲湿原には高山植物が豊富にあり、登山者を十分楽しませてくれます。

花咲湿原の木道は老朽化が進みボルトが飛び出しているのに注意しながら歩き、二箇所川越えも無事終わり、東俣駐車場、武尊牧場リフト乗り場に着き、ヤナギラの群生を見ながら下山し、閉会式の中で皆自然の大切さを確認し合い、16時20分に観察会を終了しました。

自然観察会に参加して

大間々山岳会 岡田秀子

このような機会に参加できたことはとても嬉しく思い、自然保護部の皆様方に大変感謝しております。

緑豊かで風光明媚な上州武尊山・田代湿原を三名の自然観察指導員さんにガイドしていただき、実にたくさんの湿原に咲く花・高原に咲く花・道の辺に咲く花・樹木、等の詳細な説明を頂戴し楽しく



歩くことができ、とても充実したフラワートレッキングの一日でした。また機会がありましたら参加させて戴きたいと思っております。ありがとうございます。

自然観察会に参加して

大間々山岳会 福田純一

高山植物の名前など高校山岳部の頃以来の山学で大変勉強になりました。山歩きとしても充実していました。

教えて頂いた種だけでも

〔草本〕ヤマオダマキ・ズダヤク
シュ・ユキザサ・ツクバネソウ・
イチヤクソウ・サンカヨウ・ヒメ
カイウ・ミズバショウ・ゴゼンタ
チバナ・マイズルソウ・クガイソ
ウ・ギンリョウソウ・ヤナギラン・
ジギタリス・クルマバムグラ・ヨ
ツバムグラ・ハクサンチドリ・キ
ンコウカ・シヨウキラン・トンボ
ソウ・ツタウルシ・トリカブト・
コバイケイソウ

〔木本〕ホオノキ・スギバナ・ハ
リブキ・センノキ・ウリハダカエ
デ・シラカバ・ダケカンバ・シラ
ビソ・オオシラビソ・アスナロ
他にも、まだ沢山、豊かに賑わっ
ておりました。

第63回 国民体育大会関東ブロック大会

山岳競技会報告

少年女子監督 長谷川喜久男



少年女子ボルダリング

場

大会日程と成績

七月二十六日(土)

リード競技

少年男子 7位

少年女子 2位

成年女子 8位

七月二十七日(日)

ボルダリング競技

少年男子 7位

少年女子 2位

成年女子 6位

総合成績

少年男子 7位

少年女子 2位(本国体出場)

成年女子 6位

国体山岳競技は本年度より本国

体にあわせて、クライミングの2

種目(リード競技とボルダリング

競技)で行われる変更がありまし

た。ただし、本国体は種目別の表

彰ですが、関ブロはこの2種目の

競技の順位合計で総合順位をつけ

て、通過県を決定するというもの

です。このリードとボルダリング

を合わせるところが最大の特長で

す。一般的に選手にとって、リー

ドとボルダリングには得手不得手

(好き嫌い)があります。ワール

ドカップクラスの選手でも両方に

実績を残している選手はいません。

本国体では種目別なので、このど

ちらか1種目に重点をおくことが

できますが、関ブロでは違う戦い

をしなければなりません。順位の

合計点が同数の場合は上位の順位

を持つているほうが優先さ

れるので、どちらかの競技

で1位をとればかなり有

利になります。

ただし、無尽蔵に選手が

いる県もそうそうはないの

で、また選手の実力をはか

る物指しとしてもリード競

技を参考に選手を決めると

ころが多いとは思います。

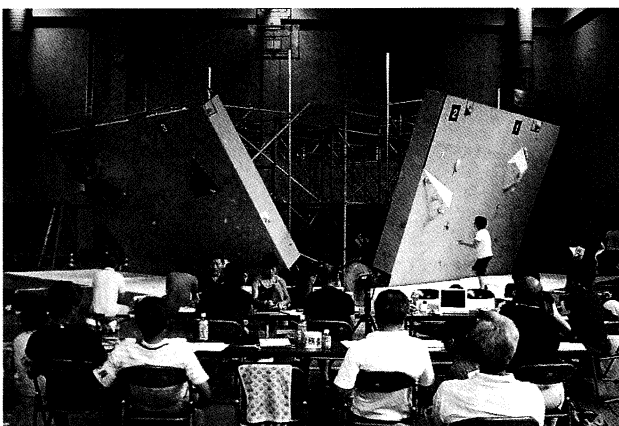
関東ブロックを通過する

のは各種別とも3県です。

さらに、関東には有力選手

が多く激戦となっていて、

本国体に出場できれば上位入賞の確率が高くなっています。有力選手には、少年男子では、今年のワールドユース日本代表の羽鎌田(千葉)、新田(神奈川)、沼尻(茨城)、JFAユース選手権7位の高山・小峰(埼玉)、Bセツシン2007第4戦28位の時長(東京)などがいます。少年女子は今年のワールドユース日本代表の小川(東京)、長谷川(群馬)、昨年度JFA強化選手の縄重(山梨)、リードジャパンカップ26位の錦織27位の山田(千葉)などがあげられます。成年女子では、2008ワールドカップ第3戦で見事に優勝の野口(茨城)、2008リ



ボルダリング会場



競技を終えて

ドジャパン3位の遠藤(神奈川県)、4位の榊原(千葉)、7位の福山(神奈川県)、9位の金谷(東京)、2006 JOCジュニアオリエンティックカップ優勝の門間(埼玉)などがいます。

総合成績

少年男子	1位 神奈川県
	2位 千葉県
	3位 東京都
	7位 群馬県
少年女子	1位 千葉県
	2位 群馬県
	3位 山梨県
	茨城県
成年女子	1位 茨城県
	2位 神奈川県

3位 埼玉県
6位 群馬県
※各種別とも上位3県が本国体に出場

少年男子はレベルの高い試合となり群馬県勢としては苦しい戦いでした。日本を代表する強いクライマーに順位をつけるハイレベルな課題には歯が立たないといった状況です。リードは戦前の予想通り順当な順位でした。1・2位は千葉・神奈川県で、3・4・5位の争いを埼玉が制し、一步リードしました。群馬としては、もっと試合経験を積み、1手のボルダリ力を磨いて順位をすこしでも上げていくことが必要です。ボルダーでは東京が強さを発揮し2位を確保し逆転で通過を勝ち取りました。1・2位の千葉・神奈川県は選手のレベルからして順当勝ちの様相でした。

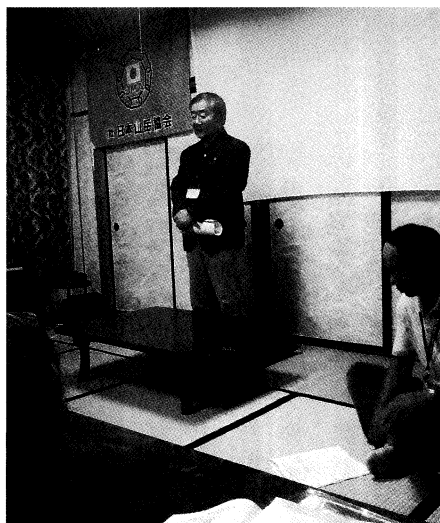
少年女子は結果的に千葉県の圧勝で、群馬は2位を確保したといったところで、欲を言えばどちらかの種目で1位をとれる実力をつけたいものです。しかし、昨年について本国体出場権を獲得しました。昨年はク

ライミング(リード競技)で6位に入賞しています。今年のチームは昨年度よりレベルアップしており、さらに上位入賞がねえそうです。少年女子の番狂わせとしては、山梨が3位で通過したことでしょう。戦前は東京の通過が確実視されていました。東京と山梨は順位の合計がともに7でしたが、山梨の縄重選手がボルダリングで個人1位と高成績を収め個人順位の合計で東京をおさえて通過を勝ち取りました。

成年女子は、ワールドカップ・全日本クラスの實力者を備えた茨城・神奈川県が安定して通過圏内にありました。リード終了時点では千葉が3位争いで一步ぬきんできた様子でしたが、ボルダリングでの門間選手の活躍により埼玉が千葉を個人順位の合計で0.5点差をつけ2位となり、僅差で通過となりました。千葉は野口選手に次ぐ優秀な成績で榊原選手がリード・ボルダーとも個人順位2位と活躍しましたが通過はなりませんでした。順位合計で群馬・山梨・栃木は同点でしたが、ボルダリングで坂庭選手が個人5位と活躍し、個人順位合計で他県をおさえ6位となりました。

第27回 海外遭難対策研究会・国際委員総会群馬で開かれる

群馬岳連理事長 佐藤 光由



挨拶する田中会長

六月二十一、二十二日、みなかみ町土合山の家で、第27回海外遭難対策研究会・国際委員総会(日本山岳協会主催)が群馬県山岳連盟主管で行われた。

二十一日十五時、日本山岳協会田中会長の挨拶の後、「ヒマラヤ登山の救助と保険について」というテーマで遭難対策研究会が始まった。救助については、岩崎洋氏(一九九七年群馬県カラコルム遠征隊に参加)より海外での救助事例と費用について数例の発表があった。遭難救助での費用が高く保険の必要性を感じた。引き続き

海外登山保険についての詳しい説明が、千代保健センターの天野博文氏(日本山岳会)より行われた。

夜は夕食を兼ねた懇親会。今年で国際部委員長を辞める尾形さん、委

員を辞める神崎さんなどから改めて挨拶を頂き、大いに盛り上がった。

二十二日は国際委員総会が行われた。通常の行事報告と決算、行事予定と予算案は問題なく可決され、その後、国際部の諸問題について議論が交わされた。総会の後、英国登山評議会国際サマーキャンプ2008に参加した、杉野保さんの報告があり、イギリスの興味深いクライミングがスライドで紹介された。

閉会の後、全員が谷川岳資料館を見学した。

2008年度 登山教室開催される

群馬岳連登山指導委員会 久保田 一美



谷川岳肩の小屋前広場にて

六月二十五日

開講式 講義・読図

七月五日

登山実技 榛名山

七月十二日・十三日

登山実技 谷川岳

今年度の登山教室・谷川岳は、

九月に予定されている中高年安全登山指導者講習会（文部科学省主催）の予行演習も兼ねることになり、生徒二十五人、講師十二人というデラックスな構成で、AM7時30分白毛門駐車場に集合した。当初三班で計画していたが希望があり四班での行動となった。

巖剛新道の出合まで乗り合わせで移動、ストレッチの後班毎に出発、随所で講習をまじえながらの登りで三班が前後しながら登った。

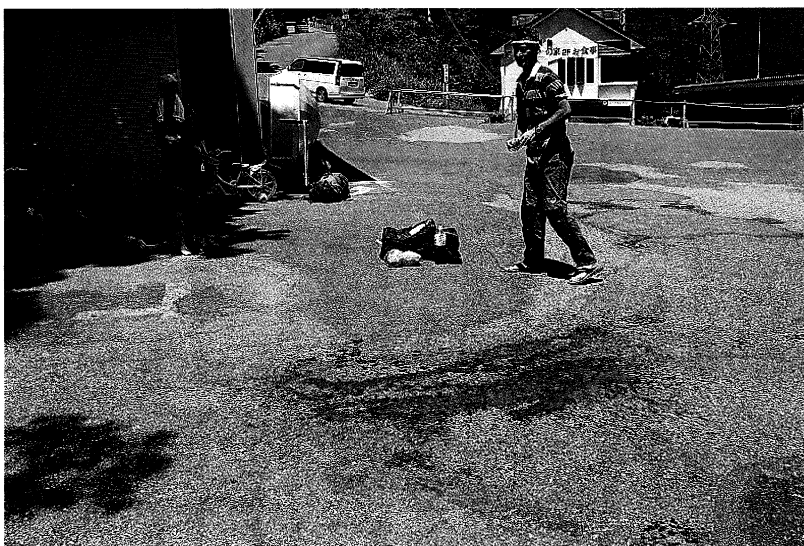
一部巖剛新道の崩壊箇所での岩登り、堅くしまった残雪の横断、一面真っ白にガスられた中での行く方向の見定め方など通常の登山

教室では経験できない様なことも思いがけず講習に入った。

肩の小屋ではキネシオテープ、テーピングテープの使い方を中心に、馬場さんの遭難救助の話など夜遅くまで盛り上がり、日帰り登山ではできない、内容の濃い講習が出来たと思う。

下山は天神尾根からロープウェイ下の林道を下り、資料館前にて怪我人搬送の講習を行った。その中に角田守さん用意の血液に見立てたペットボトル入りの赤い液体を撒いての説明があり、致死量を目で確認できるという効果があり好評だった。

下山後、「いい登山をさせていただいてありがとうございます」という生徒さんからの言葉もいただき、ポツと気持ちが温かくなった。



疑似血液で出血量確認

講師

久保田一美（太田）

高橋 守男

新井 好司

対比地 昇

角田二三男

岡安 茂能

横山 壽雄（以上高体連）

松田 龍彦

角田 守（以上前橋）

阿部 源（ミヤマ）

第11回 JOCジュニアオリンピックカップ 大会報告

高崎工業高校山岳部顧問 長谷川喜久男

(1) 期日・日程

平成20年8月15日(金) 男子予選

選

8月16日(土) 女子予選・男子準々決勝

準々決勝

8月17日(日) 男女準決勝・決勝

勝

(2) 会場

富山県南砺市・桜ヶ池クライミングセンター

ングセンター

(3) 大会の概要

日本山岳協会が主催する、日本オリンピック委員会の冠、総務・文部科学省の「スポーツ拠点づくり事業」に認定されている大会です。高校生の間では「クライミングの甲子園」として、ユースの全国大会の筆頭に挙げられ目標とされるものです。カテゴリーは国際標準のジュニア(18・19歳)、ユースA(16・17歳)、ユースB(14・15歳)となっています。各カテゴリーの上位入賞者は、「アジアユース選手権」(11月・山口県)の日本

代表の選考資料となります。

今年の大会は男子女子とも全部のカテゴリーをまとめて同じルート(男女別)で競技を行い、予選(全員)、準々決勝(60人)、準決勝(26人)、決勝(8人)と人数を絞っていく形でを行い、全体の総合順位と各カテゴリー別の順位を決定する

ものでした。

女子は69人の参加であり、準々決勝が予選となりました。競技はオンサイト・リード方式といわれるもので、1人ずつルートを決められた制限時間内(6分)にどれだけ高く登れるかという事を競います。

(4) 主な参加者と成績(女子のみ)

長谷川美玲 前女3年 総合7位(ユースA 優勝)

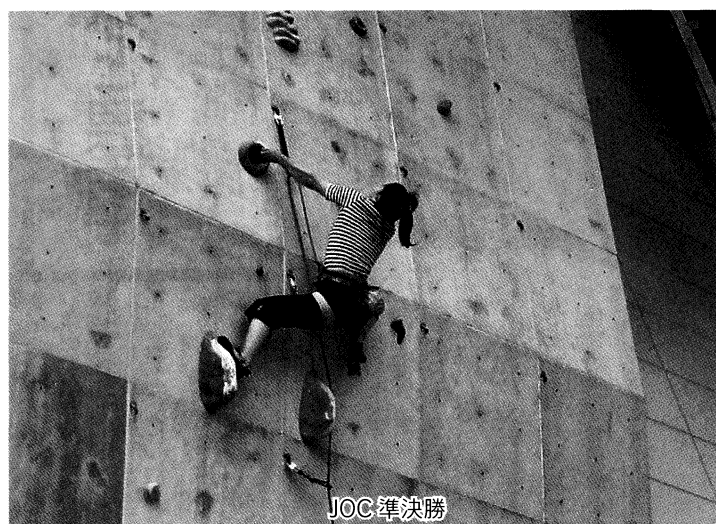
大澤咲子 前女2年 総合26位(ユースA 10位)

長谷川は高校生となってから連続3年間決勝進出という快挙で、総合7位にいい込みました。ユースAでは優勝で、一昨年にはユースBで優勝しており在学中に2冠を達成しました。群馬県勢では当然初めての快挙、全国的にも2冠以上を達成した選手はまれです。(昨年はユースAで3位でした)。今年8月26日からの世界ユース選手権(オーストラリア・シドニー)の代表選手ともなっていますが、11月のアジアユース選手権の代表も確実となりました。

大沢は山岳部に入学してからクライミングを始めて、以降順調に上達しており、予選を10位(シード選手を除き)で通過しました。やや大会の雰囲気呑まれたか、準決勝では力を発揮できず終わってしまったが、ユースAでは10位という好成績でした。この2人で大分国体に出場しますが、大いに期待のできるところです。



JOC参加者



JOC準決勝



群馬県高体連登山専門部の現状と課題

群馬県高体連登山専門部委員長 対比地 昇

一、挨拶と概況

八年間という長い期間、委員長を務めた小林達也先生から引き継ぎ、今年度から委員長を引き受けることになりました。今までは副委員長という立場で、限られた範囲のことだけをこなしていけば良かったわけですが、事務局として雑務をこなしながら組織全体を見渡したり、関東・全国高体連登山の仲間や群馬高体連、群馬岳連の方々との関係も大切にしながらということ、関係する範囲が一挙に広がりました。今年度で五十九年目を迎えた群馬高体連登山専門部の歴史を背負い、その責任の重さを感じる今日この頃です。

- 高体連登山専門部の長い歴史の中で大事にして引き継がれてきたことがいくつかありますが、まず、
- ①「全員で取り組み、全員で指導」
 - ②「二人一人を大切に」
 - ③「尾瀬からヒマラヤへ」

という三つの言葉が浮かんできます。

他の競技にも当てはまることではありますが、登山というものの特殊性から生まれてきている言葉もあります。

安全登山を徹底していくために①はとても重要なことです。顧問間の協力体制とともに、指導者の育成の重要性を訴える言葉でもあります。

②は一般的な言葉でもあります。登山においては特別に大きな意味があるように思います。一人一人の話をしっかりと聞くということを通して、組織の中でしっかりと実践してきました。

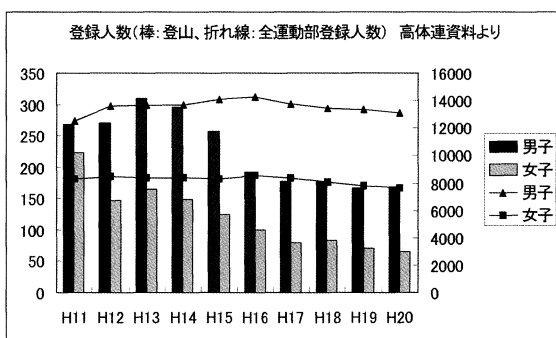
登山は他の競技と違って、顧問も生徒と一緒に行動し、常に現役でなければならぬということがあります。現役ならば目標、夢を持って取り組みたいということが③です。過去に五回の海外遠征を

実施し、夢を叶えるとともに、生徒にも範を示し、教育にも生かすことができたと思っています。また、教えた子たちの中からも登山界で活躍する人が出ることを願っている言葉にもなっています。

このようなことを大切にしながらいろいろな行事がつけられ実施してきたわけですが、ここ十数年の社会の変化の中で問題点がたくさん出てきました。部員数の減少、指導できる顧問の減少がまず第一に挙げられます。また、スポーツクライミングが登場し、国体や県総体・インターハイなどの登山競技にどう対処していくかという問題もあります。以下項目別にまとめたいと思います。

二、部員数の減少

グラフを見て分かるようにこの十年で、全運動部登録人数（折れ線グラフ）に大きな変化が見られ

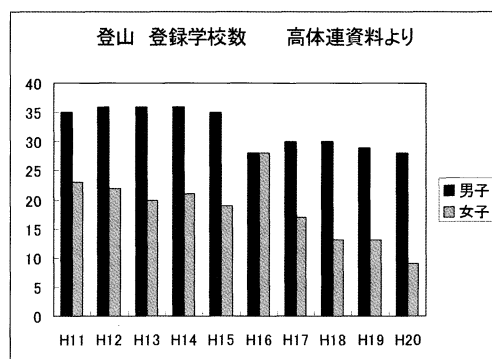


ないのにもかかわらず、登山の人数は男女ともに減少し、特に女子の減少は著しいものがあります。登録学校数も女子の減少が大きく、今年度については一桁の九校という状況になってしまいました。他の都道府県も同じような状況があり、インターハイへの参加が危うくなってきたところも出てきました。

最近の生徒の気質の変化(3K: きつい・汚い・危険の敬遠、個人主義等)、自然体験の不足、経済的問題など色々な原因が考えられますが、次に挙げる顧問(指導者)の取り組み、意識の変化も大きな原因に挙げることが出来ます。

三、顧問(指導者)の育成

一昔前までは各学校に顧問が三、四人いて、自然にベテランから若い顧問に登山の楽しみ、技術、指導法等が伝わっていきました。指導者講習会にもたくさんさんの顧問が参加し、経験が積まれ、生徒に還元されていきました。ここ十数年の学校を取り巻く社会の変化でこのサイクルが崩れ、登山の魅力を生徒に伝えていくということが困難になってきています。体力を必要とし、重い責任を負わされながらの行動を負担に感じる顧問も多くなっているように思います。このような状況の中で、顧問をどう育成していったらよいか、対策が検討されてきました。各地



第11回 JOCジュニアオリンピックカップ 大会報告

高崎工業高校山岳部顧問 長谷川喜久男

(1) 期日・日程

平成 20 年 8 月 15 日(金) 男子予選

選

8 月 16 日(土) 女子予選・男子

準々決勝

8 月 17 日(日) 男女準決勝・決

勝

(2) 会場

富山県南砺市・桜ヶ池クライミングセンター

(3) 大会の概要

日本山岳協会が主催する、日本オリンピック委員会の冠、総務・文部科学省の「スポーツ拠点づくり事業」に認定されている大会です。高校生の間では「クライミングの甲子園」として、ユースの全国大会の筆頭に挙げられ目標とされるものです。カテゴリーは国際標準のジュニア(18・19歳)、ユースA(16・17歳)、ユースB(14・15歳)となっています。各カテゴリーの上位入賞者は、「アジアユース選手権」(11月・山口県)の日本

代表の選考資料となります。

今年の大会は男子女子とも全部のカテゴリーをまとめて同じルート(男女別)で競技を行い、予選(全員、準々決勝(60人)、準決勝(26人)、決勝(8人)と人数を絞っていく形で、全体の総合順位と各カテゴリー別の順位を決定する

ものでした。

女子は69人の参加であり、準々決勝が予選となりました。競技はオンサイト・リード方式といわれるもので、1人ずつルートを決められた制限時間内(6分)にどれだけ高く登れるかという事を競います。

(4) 主な参加者と成績(女子のみ)

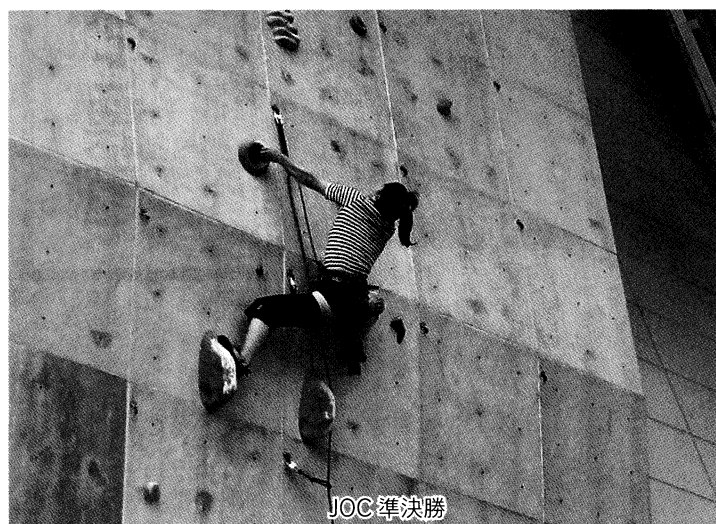
長谷川美玲 前女3年 総合7位(ユースA 優勝)

大澤咲子 前女2年 総合26位(ユースA 10位)

長谷川は高校生となつてから連続3年間決勝進出という快挙で、総合7位にいい込みました。ユースAでは優勝で、一昨年にはユースBで優勝しており在学中に2冠を達成しました。群馬県勢では当然初めての快挙、全国的にも2冠以上を達成した選手はまれです。(昨年はユースAで3位でした)。今年は8月26日からの世界ユース選手権(オーストラリア・シドニー)の代表選手ともなつていますが、11月のアジアユース選手権の代表も確実となりました。大沢は山岳部に入部してからクライミングを始めて、以降順調に上達しており、予選を10位(シード選手を除き)で通過しました。やや大会の雰囲気吞まれたか、準決勝では力を発揮できず終わってしまったが、ユースAでは10位という好成績でした。この2人で大分国体に出場しますが、大いに期待のできるところです。



JOC参加者



JOC準決勝



第11回 JOCジュニアオリンピックカップ 表彰式後

群馬県高体連登山専門部の現状と課題

群馬県高体連登山専門部委員長 対比地 昇

一、挨拶と概況

八年間という長い期間、委員長を務めた小林達也先生から引き継ぎ、今年度から委員長を引き受けることになりました。今までは副委員長という立場で、限られた範囲のことだけをこなしていけば良かったわけですが、事務局として雑務をこなしながら組織全体を見渡したり、関東・全国高体連登山の仲間や群馬高体連、群馬岳連の方々との関係も大切にしながらということ、関係する範囲が一挙に広がりました。今年度で五十九年目を迎えた群馬高体連登山専門部の歴史を背負い、その責任の重さを感じる今日この頃です。

- 高体連登山専門部の長い歴史の中で大事にして引き継がれてきたことがいくつかありますが、まず、
- ①「全員で取り組み、全員で指導」
 - ②「一人一人を大切に」
 - ③「尾瀬からヒマラヤへ」

という三つの言葉が浮かんできます。

他の競技にも当てはまることもありますが、登山というものの特殊性から生まれてきている言葉もあります。

安全登山を徹底していくために①はとても重要なことです。顧問間の協力体制とともに、指導者の育成の重要性を訴える言葉でもあります。

②は一般的な言葉でもあります。登山においては特別に大きな意味があるように思います。一人一人の話をしっかりと聞くということを通して、組織の中でしっかりと実践してきました。

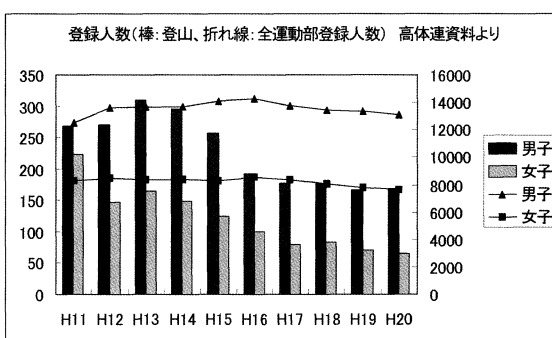
登山は他の競技と違って、顧問も生徒と一緒に行動し、常に現役でなければならぬということがあります。現役ならば目標、夢を持って取り組みたいことが③です。過去に五回の海外遠征を

実施し、夢を叶えるとともに、生徒にも範を示し、教育にも生かすことができたと思っています。また、教え子たちの中からも登山界で活躍する人が出ることを願っての言葉にもなっています。

このようなことを大切にしながらいろいろな行事がつけられ実施してきたわけですが、ここ十数年の社会の変化の中で問題点がたくさん出てきました。部員数の減少、指導できる顧問の減少がまず第一に挙げられます。また、スポーツクライミングが登場し、国体や県総体・インターハイなどの登山競技にどう対処していくかという問題もあります。以下項目別にまとめたいと思います。

二、部員数の減少

グラフを見て分かるようにこの十年で、全運動部登録人数（折れ線グラフ）に大きな変化が見られ



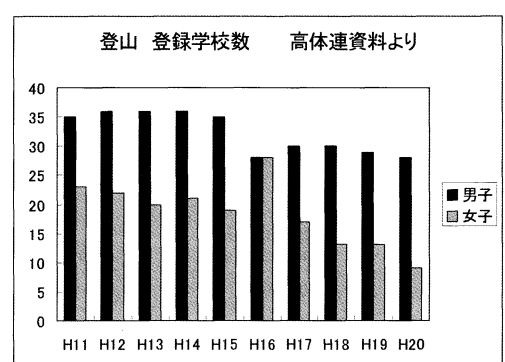
ないのにもかかわらず、登山の人数は男女ともに減少し、特に女子の減少は著しいものがあります。登録学校数も女子の減少が大きく、今年度はついに一桁の九校という状況になってしまいました。他の都道府県も同じような状況があり、インターハイへの参加が危うくなってきたところも出てきました。

最近の生徒の気質の変化（3K: 汚い・汚い・危険の敬遠、個人主義等）、自然体験の不足、経済的問題など色々な原因が考えられますが、次に挙げる顧問（指導者）の取り組み、意識の変化も大きな原因に挙げることが出来ます。

三、顧問(指導者)の育成

一昔前までは各学校に顧問が三、四人いて、自然にベテランから若い顧問に登山の楽しみ、技術、指導法等が伝わっていました。

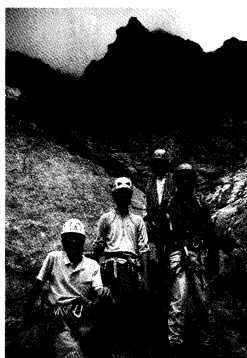
指導者講習会にもたくさんの方々が参加し、経験が積まれ、生徒に還元されていきました。ここ十数年の学校を取り巻く社会の変化でこのサイクルが崩れ、登山の魅力を生徒に伝えていくということが困難になってきています。体力を必要とし、重い責任を負わなければならない行動を感じてくる顧問も多くなっているように思います。このような状況の中で、顧問をどう育成していったらよいか、対策が検討されてきました。各地



区毎に声を掛け合い、協力しあう関係をつくるのか(地区単位での顧問懇親会、夏山合宿の合同実施)、参加しやすく有益な講習会を実施する等の取り組みが考えられてきましたが、有効な対策にはなっていないのが現状です。若い顧問が生き生きと楽しみながら登山に取り組んでいる姿はとても魅力的ですが、そのような姿を見る機会が少なくなってきたのは残念なことです。

写真 夏山顧問研修会

谷川岳一の倉沢テールリッジ



四、競技(県総体・インターハイ・国体)のあり方と取り組み

登山はもともと競技にはなじまないものですが、安全登山や自然保護等も関係して、必要悪として成り立っているという側面がありました。そこにスポーツクライミングが登場し、状況が大きく変

写真 埼玉インターハイ

新島学園 男子団体 準優勝
高女 女子団体 十位
前高 男子縦走 十八位

20年度全国高等学校登山大会



参加生徒感想文より抜粋
『山での経験から『生きていく』という実感を得られたような気がします。』

化してきています。国体に踏査や縦走があったときは、県総体・インターハイとのつながりがありましたが、クライミングだけになっ

てしまった現状では全く別物になってしまいました。高体連登山専門部においてもクライミングは登山の一つとしてリーダー養成研修

会という形で選手の育成をし、今年で群馬県高校クライミング選手権も三回目を迎えるに至りました。クライミングの扱いについてはいろいろと意見の分かれるところがあり、話し合いが持ちにくいところでもあります。安全登山に役立ったための技術修得という意味での普及活動と、競技者育成という意味での普及活動という二つの意味を持つて活動しています。自然の中での活動を中心にクライミング競技とどうつきあっていくか、県総体・インターハイをどう維持していくかが今後の課題になってくるものと思われれます。

五、まとめ

高校山岳(登山)部顧問として、指導の原点にあるものは「山は人間形成の最高のフィールドである」という考えだと思えます。若者についてのいろいろな事件を見聞きするたびに、自然の中での活動がもつとあれば違っていたのではないかと考えることがたびたびあります。岩場、鎖場等の危険箇所を通過し、山頂に着いたときの爽快感は生きる力になります。何日も重い荷物を背負って寝食を共

にした仲間の結びつきは強いものがあります。インターハイやクライミング大会で上位に入賞したときも、目標を達成したという大きな喜びがあるでしょう。夢を大きく持ち、その中から一流の登山家が出るのも楽しみです。いろいろな問題点ということで指摘をしてきましたが、我々が取り組んでいる登山という活動は、高校教育の中で大事にしていきたいものの一つだと思っています。

写真 リーダー冬季講習会 尾瀬



II. 日本の登山行政と

登山団体の関係(その1)

群馬岳連副会長

八木原

罔明

連載 2

本岳連

谷川岳の条例に入る前に、登山者の側はどうなっていたのか。登山界の動向にも少し触れておきたい。

『社団法人日本山岳協会への道』

一九〇五年(明治三八年)十月 日本山岳会創立。

鉄道交通の発達で、大学山岳部関係以外の一般社会人の旅行熱もあり、登山者が激増した。

・一九二三年(大正一五年)六月

東京旅行登山聯盟結成

・一九二九年(昭和四年)六月

関西学生山岳聯盟、関東学生山岳聯盟、九州山岳連盟の発足

・一九三二年(昭和七年)八月

東京山岳聯盟結成

・一九四〇年(昭和一五年)六月

京浜(東京、横浜)山岳団体聯合会が発会。翌年これを発展改

称し、東京府山岳聯合会が発会

・一九四一年(昭和一六年)一月

日本山岳聯盟結成。(第一次日

登山界は自由主義的登山観念の中にあったが、「非常時日本」、「高度国防国家日本」という時代の要請があった。一般体育を管理する厚生省(厚生労働省)、あるいは内閣情報部等が登山鍛錬の国防体育性の前に、日本山岳会が中心となり、結成へ進んだ。

戦後の混乱期

戦後の一九四六年十一月に、日本山岳団体聯合会が結成され、新組織としての日本山岳連盟が出来ては消える。第三次日本山岳連盟評議員会が一九四六年七月に開催され、日本山岳会と混同しないようにと「全日本山岳連盟」と命名し、会長は松方三郎が推薦されるが、後日辞退し、日本山岳会が岳連運動から手を引き、国民体育大会も日本山岳会が運営していたことなどもあり、全岳連は崩壊し、終焉を告げたのは一九五一年五月

である。

結成、解散の繰り返しで現代の我々が読んでも明快な理解がし難い。

い程の大混乱期であるが、よく投げ出さずにまとめる努力を重ねたことに感心する。

その後も結成に向けての動きは止むことはなく、これまでの対立はあっても日本山岳会との協議を続け、一九五五年(昭和三十年)五月第四次全日本山岳連盟が発会。

日本体育協会からは全国都道府

県に組織化されていることを要求されていた。

日本山岳協会の創立

五年後の一九六〇年四月一日「日本山岳協会」が日本山岳会と全日本山岳連盟の合同によって創立され、日本体育協会に加盟する。初代会長は武田久吉。全都道府県山岳連盟が日本山岳協会に加盟手続きを完了するまで、全日本山岳連盟は存続した。

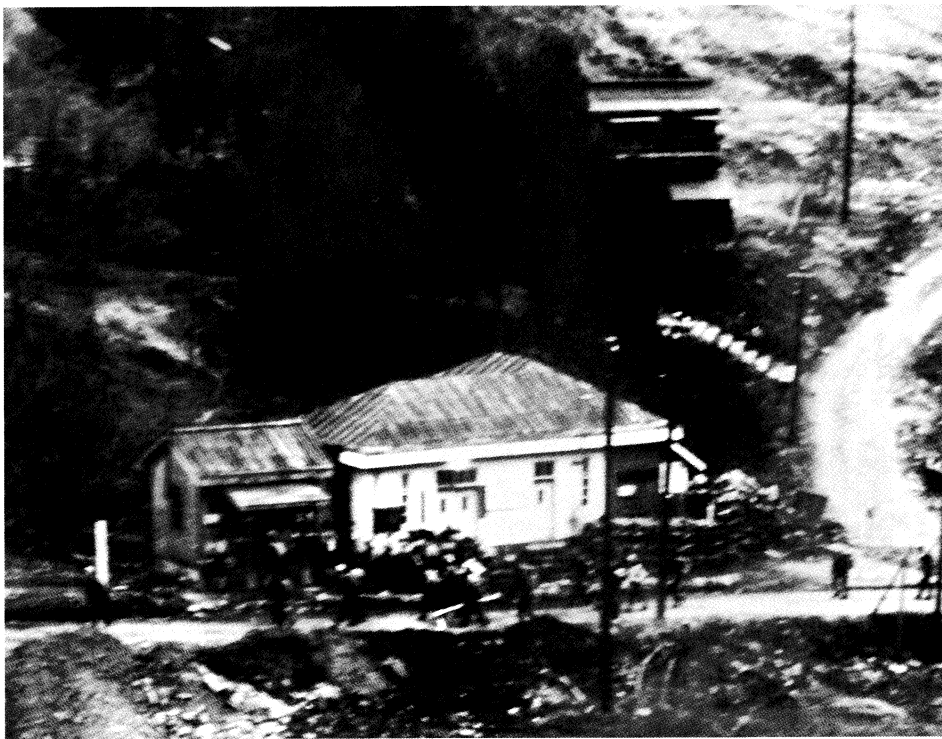
一九六五年十月に解散。この時点ではまだ法人化はされていない。

その後も、日本一古い山岳会であり、登山界全体に大きな影響力を有する日本山岳会と新参全岳連は一挙には融合せず、ことあるごとに対立し、問題が起こる。

一九六七年五月社団法人日本山岳協会が設立され、一九六八年五月二五日に社団法人の設立が認可される。

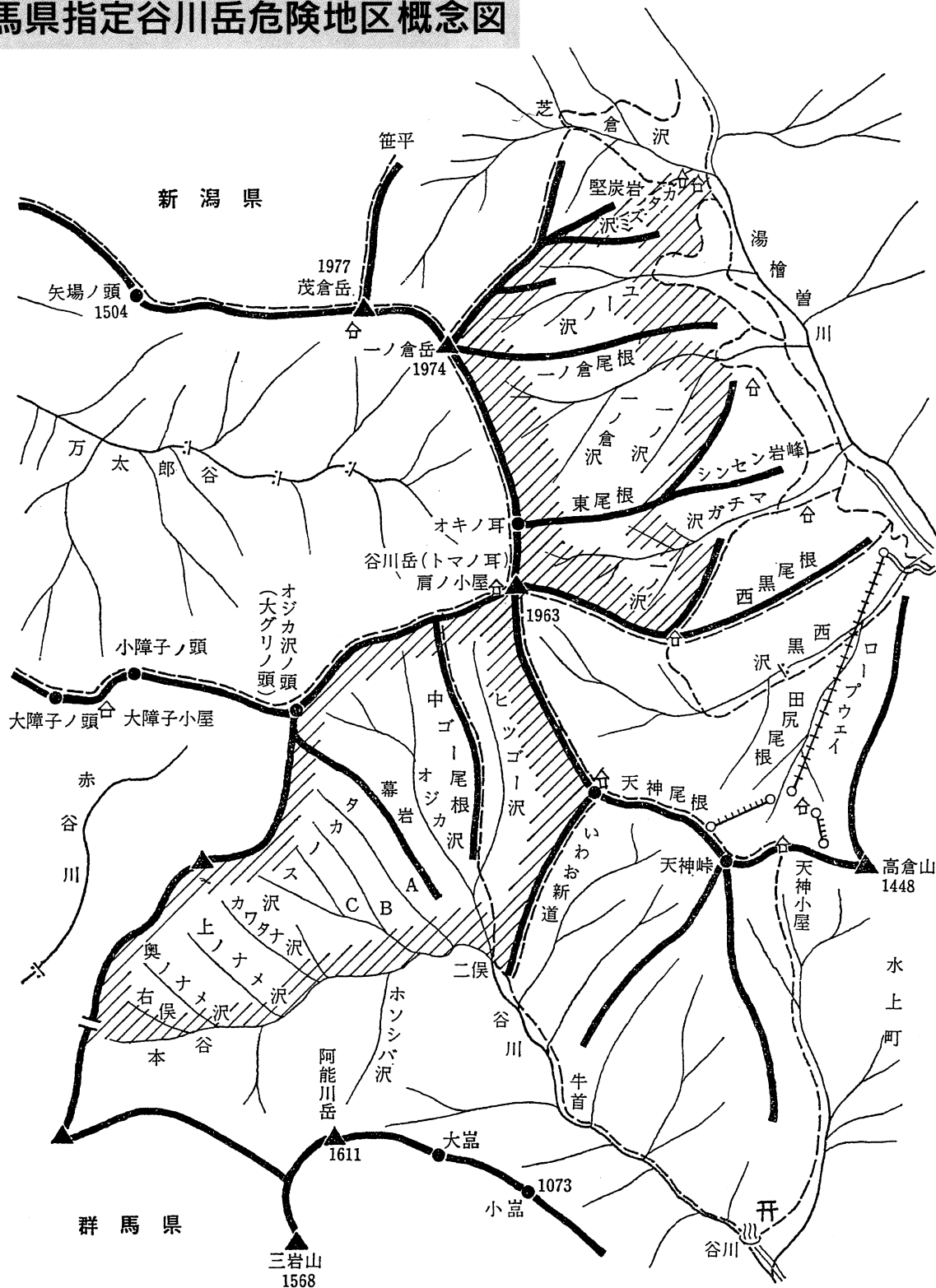
『二度目の登山規制の動き』

第二次世界大戦の終戦(一九四五年)前後はさすがに遭難者は少なかったが、遭難は減らず、「魔の山・谷川岳」の異名がつけられ、社会問題化する。



土合旧警備隊遭難対策班詰所と鳩小舎(右上)

群馬県指定谷川岳危険地区概念図



一九五七年六月「群馬県は谷川岳登山の取締法を起案した」との新聞報道がされる。

新聞は、民主主義国に山登りの自由もないのか？ 登山規制は憲法違反ではないかと取り上げ、問題はさらに拡大した。

ところが、悪いことにこの年は谷川岳の遭難事故が激増し、三十一件、十四名が死亡した。県議会の議論は硬化し「谷川岳登山を禁止するしか防止法はない」となる。

七月には「地元水上町有志と群馬県観光課により『谷川岳沢登り禁止条例案』ができた」と新聞に載る。登山界や社会の反応を見る観測気球、アドバルーンであった。登山界からの「反対論」「やむなし論」やマスコミ論争が大々的に展開され、群馬県も登山界も引っ込みがつかなくなる。

そんな時、「スポーツを法律で取り締まる方法は妥当ではない」との、国（自治省。現、総務省）の見解が発表される。この鶴の一声で終止符が打たれる。

谷川岳警備隊

群馬県は「遭難対策班」（十名）をつくり、群馬県警察本部は沼田警察署に「谷川岳警備隊」（十名）

を編成し、登山指導、パトロールを行い、遭難救援活動を開始した。登山者に伝書鳩を貸し出し、事故が起こると、鳩に手紙を持たせる救助法も実施した。対策班、警備隊の建物も鳩小舎も土合山の家へ入る道を過ぎた右側にあった。

その後も遭難事故はますます増え続け、一九五七年から一九六五年までの九年間で死者二一三名となってしまう。記録をとりはじめた、一九三一年から一九五六年までの二六年間で二〇四名であった。三倍の激増！である。

再び、条例設置の準備

一九六六年六月になり、減らない山岳遭難事故に頭を痛めていた群馬県当局は再び、条例設置の準備に入る。中央各省へ法的見解を照会し、解答を得た後に、県警、教育委員会、地元の見解を聴取し、登山者の多い東京都山岳連盟の見解を聞いてから原案を作成することにした。

富山県はすでにこの年の三月に「登山届出条例」を施行していた。登山界への世論の後押しは弱くなっていた。群馬県も社会的には大きな反対はない、と踏んでいた。自治省からは一九五七年とは違



ロッククライミング：子持山屏風岩

『登山界の変化』

一九八〇年代になると、谷川岳の危険地区での岩壁登攀をする登山者が減り始め、健康志向の中高年登山者の増加により、谷川岳における遭難の形態が変化する。

これまでは岩場における墜落、滑落、転落、冬山遭難が事故の大半であったが、これらの遭難が激減する反面、一般登山道での、転落、疲労凍死、道迷い遭難が増えている。

現在は、若年者が減り、中高年者の増加で体力、技術、知識の不足による、登山者としては恥ずかしい遭難となっている。これは谷川岳だけのことではない。全国的傾向である。例えば遭難者数は谷川連峰よりも東京の奥多摩の方が多くなっている。自分で判断をしないツアー登山者の出現にもよる。

一九八二年（昭和五七年）谷川岳の条例強化の動きもあった。谷川岳の場合は剣岳とは逆に「冬の三ヶ月間」は、登山届けの提出の必要もなく、登山指導センターも閉鎖されるなど態勢の不備も指摘されていた。そこで冬山遭難の続発を受け、「条例の通年摘要と指導

う法的見解が出され、「人命尊重と共に、地元の労苦、経費負担を考えると、公共の福祉の観点からも禁止やむなし」となり、テレビや新聞も条例問題を広く報道し、登山界の反論も空しく、体勢は「最小限の規制であれば止むを得ない」に傾いていた。

反対論

1. 憲法違反である。

① 十一條の基本的人權を犯す。
② 十三條の声明・自由及び幸福追求の權利を犯す。
③ 二一條、表現の自由を犯す。
2. スポーツ振興法と矛盾する。
スポーツ振興法は一九六四年の東京オリンピック開催に向け、スポーツを盛んにするために一九六一年九月に施行した。「スポーツとは運動競技及び身体運動（キャンプ活動その他の野外

活動を含む）であつて、……」
3. 差別条項がある。日本山岳協会加盟の山岳会員は当日「登山計画書」を提出すれば危険区域の登山が出来るが、それ以外の組織あるいは、非組織の登山者は十日前までに「登山届」を提出しなくてはならない。登山者の中に組織における差別があることは違法である、とした。

センターの常時開設」、「登山口での指導の徹底」案を出したが、指導員の給与等の財政上の問題などで消えた。

逆に、一九九九年（平成十一年）群馬県当局主導による条例を緩やかにする改正の動きがあり、数回の会議もたれ改正直前まで行ったが実現しなかった。残念なことであった。

差別条項の撤廃他、見直す必要に迫られている。条例は九九年当時よりも、もっと形骸化してしまっているとの関係者の指摘もある。

指導センターは夜は無人になり、登山計画書の提出も形式的である。

条例改正への自治体の裏事情

山岳遭難事故の多発に対し、何の手も打たないということでは、自治体は批判され、立場がない。そこで何らかの法的規制をかけたくなる。富山県が登山規制法を強引に制定しようとした直接の原因は、

①富山県は冬山登山者が毎年遭難死亡する対策を立てない、と指弾を浴びる立場に立たされていた。

②当時の県労働部長は自治省出身

のベテランで、前記のスポーツ振興法一六条によって県として

も「登山事故防止に必要措置を

せねばならないこと、条例を作れば、条例施行のための予算が国から出ることも計算に入っていた。

③スポーツ振興法第二十条の「都道府県が山の整備をするのに国庫補助が出る」ことを承知していた。

そして一旦は上手に登山界に下駄を預けておいて時間をかせぎ、再提案のための研究、準備を進めて満を持して再提案をし、制定してしまうという手法であり、彼らにとつては単純な登山界を操るくらいは「赤子の手を捻る」より楽なことであつたと思う。

*法（条例）による規制だけに触れたが、宗教的・信仰的伝統によるモノもある。

『女人禁制の山』

日本には今でも通年「女人禁制」の山が二つある。一八七二年（明治五年）に太政官布告で女人禁制が廃止されたはずであるが、未だに禁制を解いていない。

1. 大峰山系の山上ヶ岳（さん

じょうがたけ、一七一九m）奈良

県吉野郡

宗教的・信仰的伝統を守って

女性の入山を禁止している。現

代は男女共生の時代であり、女性差別という批判が強まり、二

〇〇〇年が「開祖、役行者（えんのぎょうじや）没後一三〇〇

年」となるため、それを機に、

女性の入山を認める方向で信者

らへ説明を始めたが、信者や地

元住民の反対が強く、議論が続いている。

2. 後山（うしろやま、一三四五

m）岡山県美作町と兵庫県

境

古くから修験の霊場として知

られ、行者山（ぎょうじゃせん）

とも呼ばれる。

頂上には正面の登山道からは

誰でも登れるが、奥の院を経由

する道は女人禁制となってい

る。

3. 石鎚山（いしづちさん、一九

八七m）愛媛県

信仰の対象の山で、立山や大

峰山と共に日本七代霊場に数え

られ、例祭初日の七月一日のみ

女人禁制。

《次号へ続く》

平成十九年度 冬山合宿について

群馬岳連遭難対策委員会 松永 幸雄



八ヶ岳 松井田山岳会

桐生山岳会 前穂高岳（3名）

沼田山岳会 谷川岳（10名）

々 八ヶ岳（4名）

松井田山岳会 八ヶ岳（7名）

以上の様に計画されました。

本年は年末に大雪となり、ほと

んど計画通りに実施された合宿は

ありませんでした。暮れの槍平で

の雪崩れ遭難と同じ頃に群馬岳連

からも飛騨方面に4パーティが入

山しており心配しておりました

が、全パーティが適確に判断して

下山を早めたり、入山を中止した

りと事無きをえました。

近年の冬山合宿の構成メンバー

を見ますと、毎年歳を重ねて高齢

化していき、なかなかこれからの

群馬を牽引していつてくれるよう

な若者が育たないのが懸念されま

す。予備日を含めて日程を十分に

取れない社会情勢もあるでしょう

が、是非来年度の冬山合宿が素晴

らしいものになることを期待しま

す。

加盟団体紹介

松井田山岳会

昭和三十年台初頭、全国的な登山ブームの中、松井田町においても地域の山の好きな人たちが集まり、松井田でも地域の山岳会をつくろうと昭和三十三年松井田山岳会として産声を上げた。

奇岩・奇峰で知られる妙義山塊は県内では、谷川岳に続いて山岳遭難が多い山として知られていた。山岳会発足後は妙義山から遭難をなくそうと、会員の山行は必ずと登山道の整備に費やされることが多くなった。

登山道整備を進める中においても山岳遭難は後を絶たず、山岳会員Ⅱ遭難者救援隊員というような形態になった。そのような中においても、一部の会員による奥利根源流域での活動は一目置くものも多々あった。

登山ブームの中、地域の山岳会として発足したので、町民にも山の良さ、楽しさを味わってもらおうと町民ハイキングを企画主催

し、県内の山はもとより関東甲信越の山々を中心に毎年実施し、今年で五十一回目を数えるに至っている。

妙義山塊の登山道整備や救助活動に精力的に出動する中においても、一時は谷川岳や穂高岳などにも数多く通い、会員相互の技術の研鑽に努めてきた時期もあった。しかしながらブームが下火になるにつれ、会の活動もだんだんと

先細りになり、いつしか会としての山行もなくなり、個人山行主体になってしまった。

平成になって中高年主体の登山ブームが盛んになるにつれ、当会員の中に眠っていた山好きの気持が再燃し、ここ数年は毎月の例会と会山行をはじめ春、夏、冬と合宿を行っている。

最近の活動としては、現在の会員の体力・技術に合わせて、冬の八ヶ岳、春の尾瀬、火打山、巻機山、夏から秋に掛けて谷川や奥秩父の沢を中心に山登りを楽しんで

いる。また、遭難救援隊としては、春と秋の二回、松井田警察署、安中消防署松井田分署、県防災航空隊、との四者の合同救助訓練を毎年ロックガーデンをベースに行っている。

現在の会員数三十二名（うち女性四名）であるが、中高年化は避けられずこの先が思いやられるところである。

他に、市、上毛新聞社等の主催による五月の安政遠足、十月の旧中仙道ウォーク、十一月の旧中仙道下り、これらの催しについては

初回から協力し、会員の中より市の観光協会にも理事として参加しており、地域に密着した山岳会といえる。

会長Ⅱ高木幹、事務局Ⅱ安中市松井田町北野牧一八三六四 佐藤悦良方 電話…〇二七―三九五―三五一四

*会員募集は随時行っておりまして。ご希望の方をご存知でしたら最寄の会員までご紹介下さい。



冬合宿 西天狗岳山頂



春山スキー 富士山



夏合宿 荒川源流

こんなテクニク知ってますか？

《傷ついたロープで懸垂下降》

大間々山岳会 福田 純一

懸垂下降の荷重に耐えられない傷がロープについてしまった場合に、最大距離を懸垂下降しつつ回収する方法です。

まずは傷部分でロープを繋ぎます。(あたりまえの事ですがが念のため)

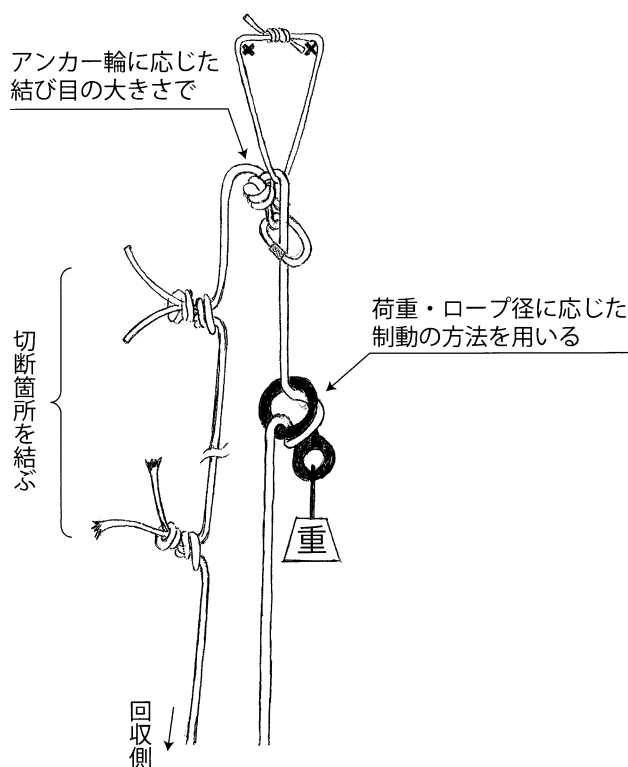
懸垂用支点にロープを通し繋いだ方を「回収時引き側」にします。傷のないロープならこのまま懸垂下降器具をダブルロープ状態でセットすればよいわけですが、大型のエイト環でもなければ傷の繋ぎ目に引っ掛ってしまいます。

そこで繋ぎ目のないほうでシングルロープとして懸垂下降するのです。繋ぎ目側が支点から懸垂下降側にずれないように結び目を作ります。アンカーがスリング直掛けかマイロンなど小型の環なら「引き側」を輪(二つ折り)にしてダブルのオーバーハンドノットを作ります。カラビナなど大きな目の環の場合はトリプルのオーバーハンドノットなどで大きい結び目にして懸垂下降側にずれないように

にします。(ペツル社のカタログにはエイト環を使ったズレ防止の方法が紹介されています) 結び目を固くしつかりと締めることは言うまでもありません。結び目の先端ループはカラビナで懸垂下降側ロープに掛けておきます。

各自の懸垂用器具をシングル

ロープで使用するとき充分な制動力を得る掛け方については其々に研



究・検証をして下さい。
回収方法は通常通りです。

《参考までに》

何ヶ所も傷つけてしまったら？ そのときは傷のない最長スパンを下るしかないですね。ただし懸垂用器具を使わない肩絡み等の古典的手法を発揮出来る方なら今回の方法は無用です。道具に頼らない方法も身につけておくと良いですね。

味のりんご

アンナプルナりんご園

沼田市上久屋町 1231 TEL・FAX 0278-23-6802

<http://annapurna.jp>

Annapurna

総合建設業 空調・衛生・消防設備工事

石原工業株式会社

本社 浜川市有馬 164
☎ (0279) 24-7111(代)

工事部 浜川市赤城町北上野 203
☎ (0279) 56-8111(代)

電話、弱电工事

プモリ電設

〒379-2223
伊勢崎市小泉町 252
☎ 0270-62-2012



(有) 山とスキーの店 石 井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町 3448-2
TEL 0270-21-8025 FAX 0270-21-8026